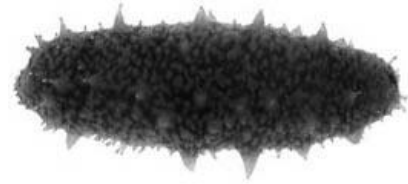


マナマコ

Apostichopus armata

地方名

あかなまこ、あおなまこ、
くろなまこ



生態

- ①寿命：7～8年程度
- ②成熟：雌 130g 以上、雄 87g 以上
- ③産卵期：4～7月（水温 13～16℃前後）
- ④分布：沖縄県を除く日本全国のほとんどの沿岸の、潮下帯から水深 40m 前後までの砂礫、転石、岩盤域に生息する。
- ⑤生態：ふ化～稚ナマコに変態した直後までは植物プランクトンを餌とし、その後は浮遊珪藻や付着珪藻、砂泥中の有機物などを餌とする。水温約 20℃以上の間は、岩盤や転石などの隙間で、夏眠と称される休眠状態になる。夏眠期以外には、岩盤や転石などの隙間や表面、スゲアマモ藻場など藻草類の株元に生息する。
- ⑥成長：ふ化した幼生は浮遊生活し、2～3週間後に稚ナマコに変態する。陸奥湾では1歳で30g前後に成長するが、個体による成長差は大きい。その後は、夏に夏眠のために体重が減少し、水温が低下する秋以降に体重が回復し、再び成長を始めるという季節変化を繰り返しながら成長していく。雌は3歳頃、雄は2歳頃から繁殖に参加するようになる。

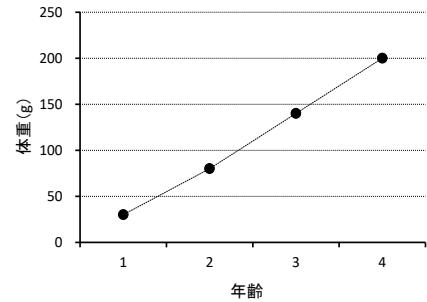


図 青森県におけるマナマコの成長

主な漁業

本県の各沿岸で漁獲されるが、陸奥湾が県漁獲量の大半を占める。けた網、たもを使った底見、潜水等で漁獲され、冬季が漁期の中心となる。

漁獲の動向と水準

昭和 50 年代に 400～900 トンで推移していた漁獲量は、昭和 63 年の 293 トン以降急増し、平成 19 年には最高の 1,653 トンを記録した。平成 26 年以降は減少傾向で、平成 30 年の漁獲量は 754 トンであった。

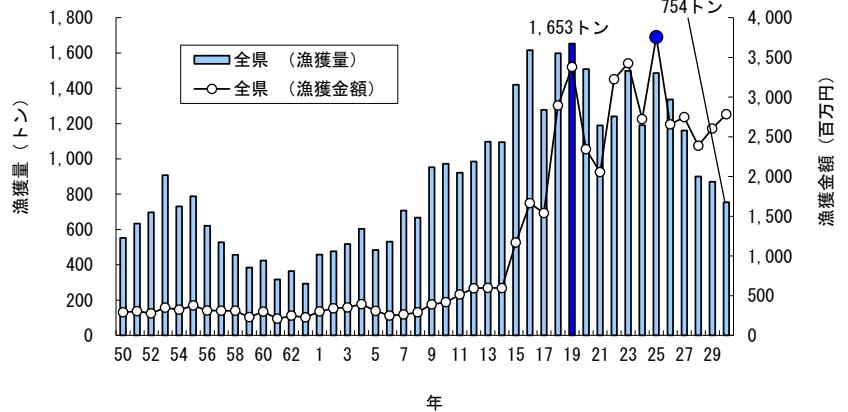


図 青森県におけるナマコの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画
(むつ市・横浜町漁協 平成 10 年 3 月)
・操業区域の制限、稚ナマコの保護などを定めた。
- 青森県ナマコ資源管理指針
(平成 22 年 3 月)
・小型個体の再放流や禁漁、休漁期間の設定などを定めた。



☆青森県海面漁業調整規則による採捕の禁止期間（5月1日～9月30日）や漁具の制限（なまこけた網：網の目合 6cm 以上）を遵守し、安定した漁獲につなげることが必要である。

☆ホタテガイの貝殻を海底に敷設することで、稚ナマコの住み場を造成できることが分かっている。